



- イラク クルド人独立の動き 6
- 武井武雄 愛される「童画」 9
- 障害児学校教室が足りない 14
- ◀メッシ頼りのアルゼンチン 12
- 小説 6
- 囲碁・将棋 11 読者の広場 11

しんぶん赤旗

2014年 6月27日 金曜日
 日刊第22818号
 発行所 日本共産党中央委員会
 〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の26の7
 定価(税込み、郵送は別途送料)
 日刊 月3497円(本体価格3238円) 1部売り130円
 日曜版 月823円(本体価格762円) 1部売り210円
 郵便振替口座 日本共産党中央委員会00180-6-194897

電話 03(3403)6111 ファクス 中央委員会03(5474)8358 赤旗編集局03(3350)1904 <http://www.jcp.or.jp/>

展望

号外
 (発行)
 日本共産党
 神戸製鋼委員会
 (連絡先)
 (住所)
 神戸市兵庫区新
 開地3-4-20
 (電話)
 078-577-6255
 (FAX)
 078-577-2240

「鉄鋼現場」の危機

日本の産業の土台を支える鉄鋼業。1970年代から始まる採用抑制、バブル崩壊によるリストラで、いま安全・技術の継承が困難に陥っています。リストラの果てに、日本の「ものづくり力」が根底から揺らぎ始めています。

神戸製鋼

5月7日、夜勤の疲労がピークに達する午前5時20分。神戸製鋼(神鋼)・神戸製鉄所で、21歳の青年労働者が一人で作業中に、作動する機械に体はさまれる重大事故が発生。20日に息を引き取りました。

安全を犠牲

そのわずか1日前、同じ職場で61歳の再雇用のベテランが機械の間に胸をはさまれ肋骨が砕けて肺が損傷するという悲惨な事故がありました。これらを含め、鉄鋼事業部門で4月16日から3週間で5件の重大災害が連続しています。

神鋼は5月8日、鉄鋼事業部門安全非常事態宣言をだし

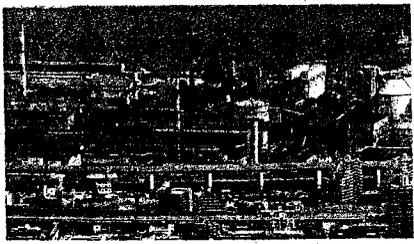


ます。5月21日には、川崎博也社長が「災害連鎖の流れを断ち切る、実効性のある活動を展開するよう強く要請します」との声明を発表。青年労働者らに動揺と不安が広がり、退職者も出始めています。

短期間に重大災害が連続する原因はどこにあるのでしょうか。

一つは、安全対策の根本的な欠陥です。

あるベテラン労働者は指摘します。「会社は、個人の注意力アップをよびかけます



神戸製鋼神戸製鉄所(峯松進撮影)

重大事故3週で5件死亡も

が、危険を危険と思えない労働者もいる。また人間はどんなに注意をしてもミスをするものです。事故を防止する設備対応が不可欠です。

生産現場では、労働者が危険区域に入った場合、設備が自動的にストップするなど「フェールセーフ」「フールプルーフ」と呼ばれる安全設備・対策があります。しかし神鋼は、これまで重大事故が発生しても、「不安全行動の撲滅」を強調するだけで、これらコストがかかる安全対策を実施してきませんでした。

「止めるな」

もう一つが、生産性向上が追求される過酷な実態です。現場では不良休止時間が大きな問題になっています。

製鉄所のある工程では、複数の班が共同で一つの製造ラインを管理。ラインの一部で設備や操業のトラブルが発生すれば、復旧までライン全体の生産が休止します。この期間が不良休止時間です。

不良休止時間は、神鋼加古川製鉄所(兵庫県加古川市)の2013年上期で、月409時間と前期より悪化。神戸製鉄所では上期19.1時間で、前期76時間から2.5倍になりました。加古川製鉄所の不良休止時間の損失は約100億円とも指摘されます。

会社が、不良休止時間の削減に躍起になり、「生産を止めるな」という圧力で、機械の停止をためらう雰囲気が出ています。

安全性も生産性も脅かされる背景には、新規採用抑制、80、90年代のリストラでつくられた「M字型」年齢構成があります。(行沢寛史)

読者の未来を限らず
 しんぶん赤旗
 日刊:月3,497円
 日曜版:月823円

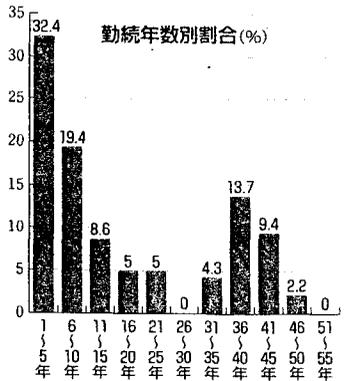


(5面) (7) (7) (7)

「M字型」にゆがんだ年齢構成



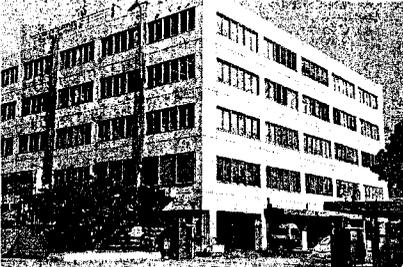
左のグラフを見て下さい。神戸製鋼のある現場の勤続年数分布です。若手とベテランの人員構成が高く、中間層が低くなると「M字型」を構成しています。



「鉄は「産業の米」ともいわれ、建築や造船などに使われる厚板、自動車のボディーや家電などに使われる薄板、自動車のボルトや軸、バネなどに使われる線材など、各産業の材料を製造しています。神戸は、高級鋼線材を得意として、自動車のボルトや軸、バネなどに使われる線材など、各産業の材料を製造しています。神戸製鋼は、高級鋼線材を得意として、自動車のボルトや軸、バネなどに使われる線材など、各産業の材料を製造しています。

安全・品質 脅かす

神戸製鋼



神戸製鋼神戸製鋼所 (森松進撮影)

桜美林大学教授の吉田三千雄さん 戦後日本鉄鋼業は日本経済の「発展」に基軸的な役割を果たし、かつて粗鋼生産において世界第1位の座にありました。今日でも高級鋼材を



中心に高い輸出競争力を保有しているといえます。しかし1970年代後半以降は、内需低落のもと過剰生産能力の保有の中で、労働者削減を中心とする厳しい合理化と系列

企業自らを弱体化

・下請け企業を巻き込んだコスト削減策の連続でした。「パブル」崩壊後、大規模高炉企業は今日の熟練労働者不足につながる正規従業員の大規模削減と、JFEスチール、新日鉄住金の成立という企業再編を進展させ、重大労災事故も頻発させました。経営者は「安全の基本動作ができていない」と労災事故の責任を労働者に転嫁するのではなく、事故に遭遇しやすい生産現場には、熟練労働の形成と継承を可能とするような計画的な正規労働者の配置をすべきです。短期的な利潤を求めた労働者削減は、長期的には自らの存立要因を弱体化させるでしょう。

機械止まっても原因わからず

「かつて現場には品質を維持できる熟練労働者が多く、設備トラブルが起きたときにはすぐに対応できる技術者もいました。しかし、80、90年代出向させられ、現場からテラン労働者」

「M字型」年齢構成の問題は、神戸だけの問題ではありません。「効率化を追求する経営は曲がり角にきているのではないか。効率を犠牲にしても人材を育てる、技術を高めることが経営に求められている」「鉄鋼新聞」(3月25日付)によれば、JFEスチールの林田英治社長が3月、日本鉄鋼協会の特別講演会でこう語っています。あわせて、林田社長は、「現場系の監督者の急激な若返りが今の一番の課題」と指摘。設備保全については「コスト削減のために外注化を進めているが、JFEからの出向社員が退職するなど外注先でも世代交代が進んでいる」として、「外注化を少し逆戻りさせなければならぬのではないか」と語ったとしています。生産性をあげながら、安全性を維持するために、雇用、労働条件の改善が切実に求められています。鉄鋼生産という危険と隣り合わせの職場で、品質と安全を守っているのは、日夜顔に汗を流している現場の労働者一人ひとりです。働く人を大切にすることこそ、経済成長と産業発展につながります。神戸では、労働者が「安全を考える会」を発足させ、安全性の向上にむけた運動を始めました。現場労働者が安全・安心で働くことができる賃金・労働条件の確立が求められています。



安倍政権は、歴代自民党政権のなかでも、戦後最悪の反動政権と言わなければなりません。このような内閣は、一日続けば、その分だけ、日本と国民に災いをもたらすことになることは、もはや明らかではないでしょうか。私は、心から呼びかけたい。安倍政権打倒の国民的大運動を起そうではありませんか。

日本共産党 志位和夫委員長
(7月15日日本共産党創立92周年記念講演会より)

日本共産党は全国に2万の党支部、30万人を超える党員をもち、草の根で活動し、企業団体献金を一円も受け取らず、政党助成金も受け取っていない政党です。

希望ある未来をつくる政党「日本共産党」への入党、働くものの未来を照らす「しんぶん赤旗」の購読を心から呼びかけます。

先読み申し込み (連絡先)

日本共産党 神戸製鋼委員会

(住所) 神戸市兵庫区新開地 3-4-20
(電話) 078-577-6255 Fax:078-577-2240
メール: info@jcp-shinko.jp
ホームページ (http://www.jcp-shinko.jp)

お申し込みは上記が現場のものよりの方まで